

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073800197
法人名	社会福祉法人 同朋会
事業所名	グループホーム同行園
所在地	福岡県糟屋郡宇美町障子岳南2丁目14番25号 (電話) 092-933-4811

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 7月 2日	評価確定日	H21年 8月 6日

【情報提供票より】 (平成21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤 0人, 常勤換算 16.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての 3階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年 5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	12 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡輝栄会病院、はすだ歯科医院、秦病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山麓に開かれた住宅街の中、介護老人福祉施設に併設された事業所である。同一建物内には在宅介護支援センター、デイサービスセンターがあり、3階・4階に事業所が位置している。西側ベランダからは町内を一望するように視界が開け、東側ベランダからは山麓を借景にした風景がある。事業所は、利用者主体の個別ケアの実践に努めている。行事やレクリエーション等を充実させ、利用者の心に寄り添い、笑顔をより多く引き出すケアに努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、玄関にセンサーチャイムを設置する等し、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各ユニットの主任が骨子を作成し、全職員に意見を求め、主任や管理者等で集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、現状や行事計画、外部評価結果等の報告を行っている。委員からは、玄関の施錠や不審者対策等について意見や要望を聴取しながら、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を玄関に設置している。家族来訪時に声かけをし、家族等の意見、要望等を積極的に聴取するよう努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明し、玄関にパンフレットを置いている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りや敬老会、地域清掃活動等、地域の行事への参加や、地域の農園を借りて菜園を作る等、地域との交流に努めている。近隣中学校の職場体験や介護福祉士、ホームヘルパー実習生、ボランティアを受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と交流し、事業所の機能を地域に還元する」と、事業所独自の理念をもっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや朝礼等で理念の確認を行いながら、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや敬老会、地域清掃活動等、地域の行事への参加や、地域の農園を借りて菜園を作る等、地域との交流に努めている。近隣中学校の職場体験や介護福祉士、ホームヘルパー実習生、ボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各ユニットの主任が骨子を作成し、全職員に意見を求め、主任や管理者等で集約している。前回評価での改善課題について、玄関にセンサーチャイムを設置する等し、改善に向けて取り組んでいる。	○	外部評価の改善課題を書面化し、全職員で協働して改善に取り組み、改善シートとして保存してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や行事計画、外部評価結果等の報告を行っている。委員から玄関の施錠や不審者対策等について意見や要望を聴取し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報誌の持参や入所待機の相談をする等、行政担当者と行き来する機会があり、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度について学んでいる。家族に対しては玄関にパンフレットを置いて周知を図っている。	○	研修記録・テキスト等を整備し、資料等は職員がいつでも確認出来るように事業所で保管してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	4月から季刊号として事業所便りを発行している。家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態を報告し、行事等は個人及びユニットごとにアルバムを作成し、自由に閲覧できるようにしている。金銭管理については、月1回、家族へ書面で報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。家族来訪時に声かけをし、家族等の意見、要望等を積極的に聴取するよう努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明し、玄関にパンフレットを置いている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的に職員交流会を開催する等し、異動や離職を必要最小限に抑えるように努めている。職員の異動が生じた場合は引継ぎの期間を十分に設け、利用者の不安の軽減に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人代表者や管理者等は、職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>月1回、ミーティング時に人権擁護の勉強会を実施している。参加できなかった職員に対しては伝達し、周知徹底を図っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が内部研修や法人内研修、外部研修に参加する機会を設けている。また、研修内容について伝達研修を行う等し、全職員が周知できるようにしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者及び職員は、同一法人内のグループホームとの連携はある。</p>	○	<p>「同業者との交流の意義」を職員間で協議し、他の同業者と交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には事業所見学や体験利用、自宅訪問等を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談している。やむを得ず即利用となった場合は、寄り添う機会を増やす等して、利用者の不安の軽減に努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に料理、掃除等を一緒に行い、職員が知らない野草の名前や歴史、生活の知恵等、利用者から教えてもらう場面がある。菜園作り、調理、書道等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの希望や意向を聴取し、本人の希望に副うよう努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や生活歴、家族からの情報を得て、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の希望、職員の気づきを聴取し、ミーティングで話し合い、個別的な介護計画を作成している。介護計画に、家族の署名・捺印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、介護計画を見直している。また、毎月ケアチェックを見直ししながら、利用者の状態や状況に応じて、その都度、家族、職員と話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、職員が面会を行いながら、早期退院に向けて家族や医療機関との協議を行っている。また、本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や希望する医院での受診を支援している。通院介助方法や受診結果の伝達方法について、家族や医療機関と話し合い、共有している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針がある。状態の変化に応じて、家族、かかりつけ医や職員等で話し合い、方針を全員で共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いやプライバシー確保の徹底に努めている。利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応がある。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日のスケジュールはあるが、利用者一人ひとりの希望にそって、柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に配膳や片付け等を行っている。	○	利用者と職員が共に暮らす視点から、職員はできるだけ毎食利用者と同じテーブルで同じ物を食べ、一緒に味わいながら食事をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせて柔軟に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の利用者には声かけを工夫する等し、できるだけ入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者及び家族からの聴き取りや生活歴から得意なことを把握している。洗濯、配膳、掲示物の書字等の力を活かした役割や編物、カラオケ、喫茶等の楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の希望、体調に応じて、買い物や散歩、外食やドライブ等を支援している。また、近隣に地域農園を借りて、利用者と職員が共に野菜作りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、終日施錠している。	○	今後は利用者の安全を考慮しながら、施錠の頻度を少なくしてほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回、母体法人と共に避難訓練を行っている。非常用食料や飲料水は1階に備蓄している。	○	避難訓練を実施する際は、地域住民への参加協力が得られるよう働きかけてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成し、利用者一人ひとりに応じた形態や量を支援している。医師から指示がある利用者のみ、栄養摂取量、水分摂取量の記録がある。	○	全利用者の栄養摂取量及び水分摂取量を記録し、利用者の健康管理に努めてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、和室、食堂にソファを設置し、ゆったりと過ごせる居場所がある。また、落ち着いた壁面の飾り付けや置物があり、家庭的雰囲気配慮している。不快と感じる音や光はなく、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や思い出の品、テレビ、筆筒等が持ち込まれ、利用者一人ひとりの個性が感じられる居室である。		

※ は、重点項目。